

6月20日(土曜日)「新しい歌を主に」

【新改訳 2017】

詩篇 96・1—13

「新しい歌を主に歌え。全地よ。主に歌え。主に歌え。御名をほめたたえよ。……まことに主は大いなる方、大いに賛美されるべき方。……尊厳と威光は御前にあり、力と栄光は主の聖所にある。」(1—6節)

人生に歌があることは、なんと幸いなことでしょう。特に喜びの歌があることは！

しかし、現実には聞くにも歌うにも実に切ない歌が多いのです。筆者は十九歳のころ、学校の教員をしながら人生のむなしさに苦悩して、酒も飲めないのに「酒は涙か、ため息か」を歌いながら、農村の田んぼ道を通勤したことがあります。まさに「エレジー」(悲哀の歌)でした。

しかし、救われてから歌が変わりました。重度の

肺結核で、二度と大声で歌えないと思われた人間が、奇跡的に癒され、今 74 歳にしてなお、同じ賛美歌を歌うたびごとに「新しい歌」として、心底から歌うことが許されています。主への賛美です。
ハレルヤ！

～祈り～

主よ。今、このように、日々心から賛美できること、しかも、歌うたびに新しい思いで賛美できることを感謝いたします。

【学びのために】

(参考区分)1-6 節 創造主を賛美することへの招き、7-13 節 統治者なる神を賛美することへの招き(または勤め)。